

国史跡^{むきばんだ}妻木晩田遺跡^{せんたに} 仙谷地区
第27次発掘調査 現地説明会



仙谷1号墓の調査風景

平成24年10月13日（土）



鳥取県立むきばんだ史跡公園

<調査の概要>

むきばんだ史跡公園では、妻木晩田遺跡が営まれる弥生時代後半期の^{ぼいき}墓域の実態解明を目的に、平成22年度から^{せんたに}仙谷地区の発掘調査を行っています。

^{むきばんだ いせき}妻木晩田遺跡では、これまでに^{ふんきゅうぼ}34基の^{よすみとっしゅつがたふんきゅうぼ}墳丘墓（^{ふんきゅうぼ}四隅突出型墳丘墓は13基）が確認されており、^{どうのはら}洞ノ原地区 → ^{せんたに}仙谷地区 → ^{まつおがしら}松尾頭地区 と時期によって墓域が移動することがわかっています。

しかし墳丘をもたない一般の人たちのお墓や、妻木晩田遺跡が最も栄えた弥生時代後期後葉（2世紀後半）の墳丘墓などはみつかっておらず、お墓をめぐるナゾがたくさんあります。

今年度の調査は、妻木晩田遺跡最大の四隅突出型墳丘墓である仙谷1号墓と、その北側の尾根にある墳墓（平坦面1）で実施しました。

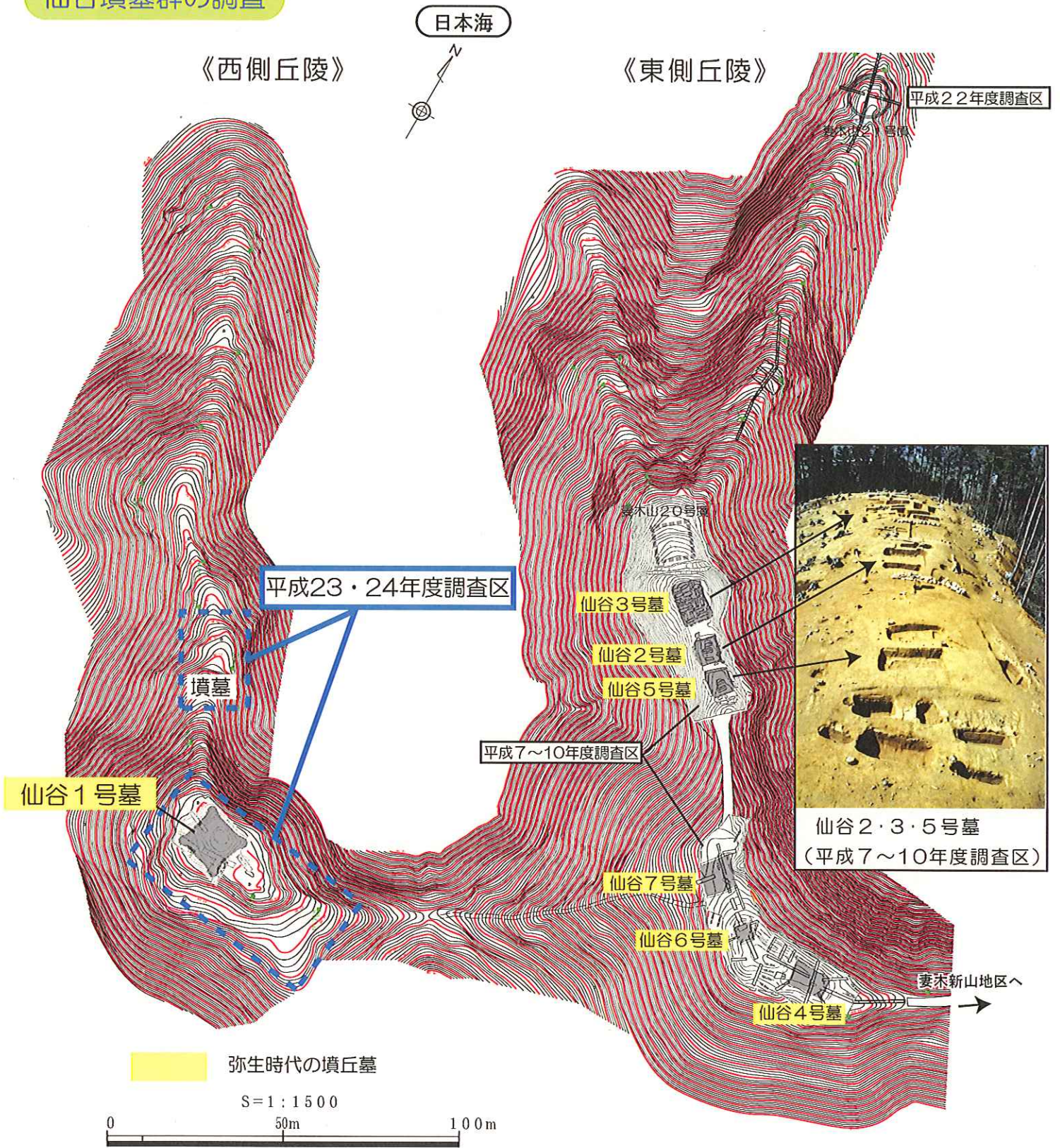
仙谷1号墓の調査は平成4～5年に試掘が行われて以来、約20年ぶりの調査となりました。今回の調査で^{はりいし}貼石の状況や^{ふんきゅうもりど}墳丘盛土の存在など、仙谷1号墓の墳丘構造に関する詳細な情報を得ることができました。

^{ふんぼ}墳墓（平坦面1）については、昨年度に引き続き調査を行い、^{ぼこう}墓壕や^{まいそうしせつ}埋葬施設の構造が明らかになりました。



図1 発掘調査現場の位置と墳丘墓一覧

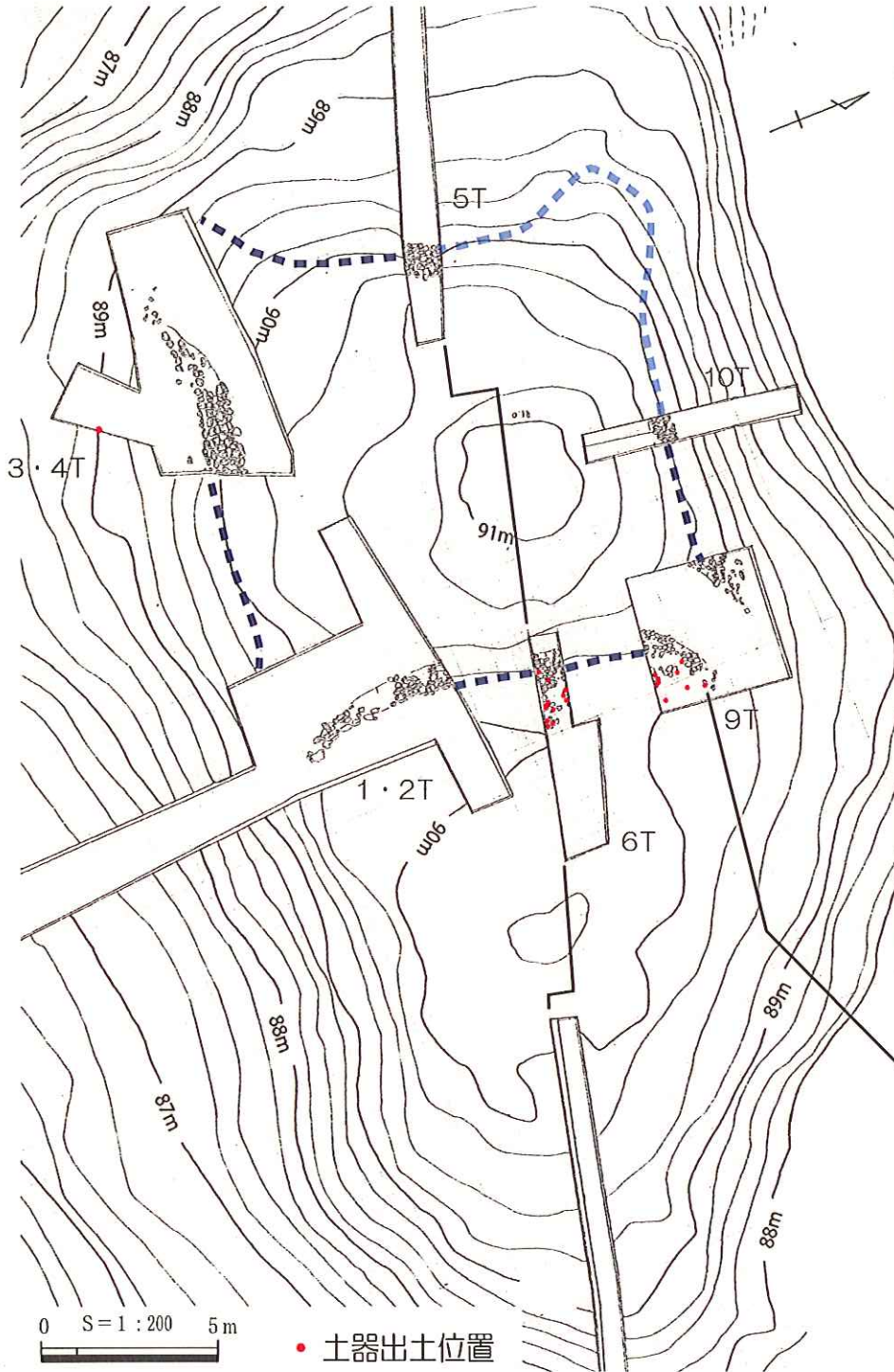
仙谷墳墓群の調査



せんたにふんぼくぐん
【仙谷墳墓群について】
 せんたに
 仙谷墳墓群は、妻木晩田遺跡の北西部にあたる仙谷地区に位置し、弥生時代後期始め頃につくられた洞ノ原墳墓群(洞ノ原地区)に続く、弥生時代後半期の墓域(墓地)です。
 せんたに
 仙谷墳墓群では、これまでの調査で墳丘墓7基(弥生時代後期中頃、終末期)が見つかります。このうち、今回発掘調査を行った仙谷1号墓は、一辺が突出部を含めると15m程度の四隅突出型墳丘墓で、妻木晩田遺跡では最大規模の墳丘墓と考えられています。

図2 仙谷墳墓群全体図 (S=1/1500)

H24年度仙谷1号墓の調査



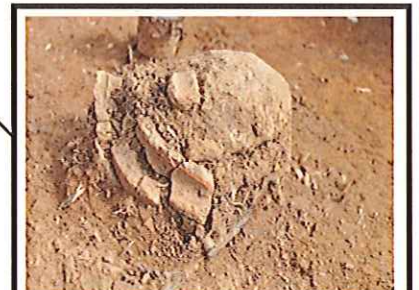
ほりいし 貼石 南側～西側(淀江平野および海)を意識した築造と考えられます。



南～西側：貼石に大きな礫を利用。
敷石・列石を置いて裾部を形成。



北～東側：貼石に小さな礫を利用。
敷石・列石なし。



弥生土器出土状況 (小型の甕又は壺)
【9T 突出部南東側裾部】

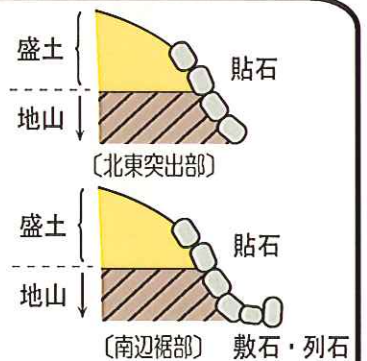
墳丘 平面規模：東西12.5m×13m (突出部を除く)

高さ：最大約1.6m (表土を含む)

盛土：西・南側は削平され失われていましたが、墳頂部に本来の墳丘が残っていました。

調査の結果、地山を加工して墳丘下部とし、その上に約30cm盛土して墳丘を造成していることが分かりました。

貼石：面によって石の大きさや敷石・列石の有無に違いがあります。



【墳丘盛土概念図】

図3 仙谷1号墓トレンチ配置図 (S=1:200)

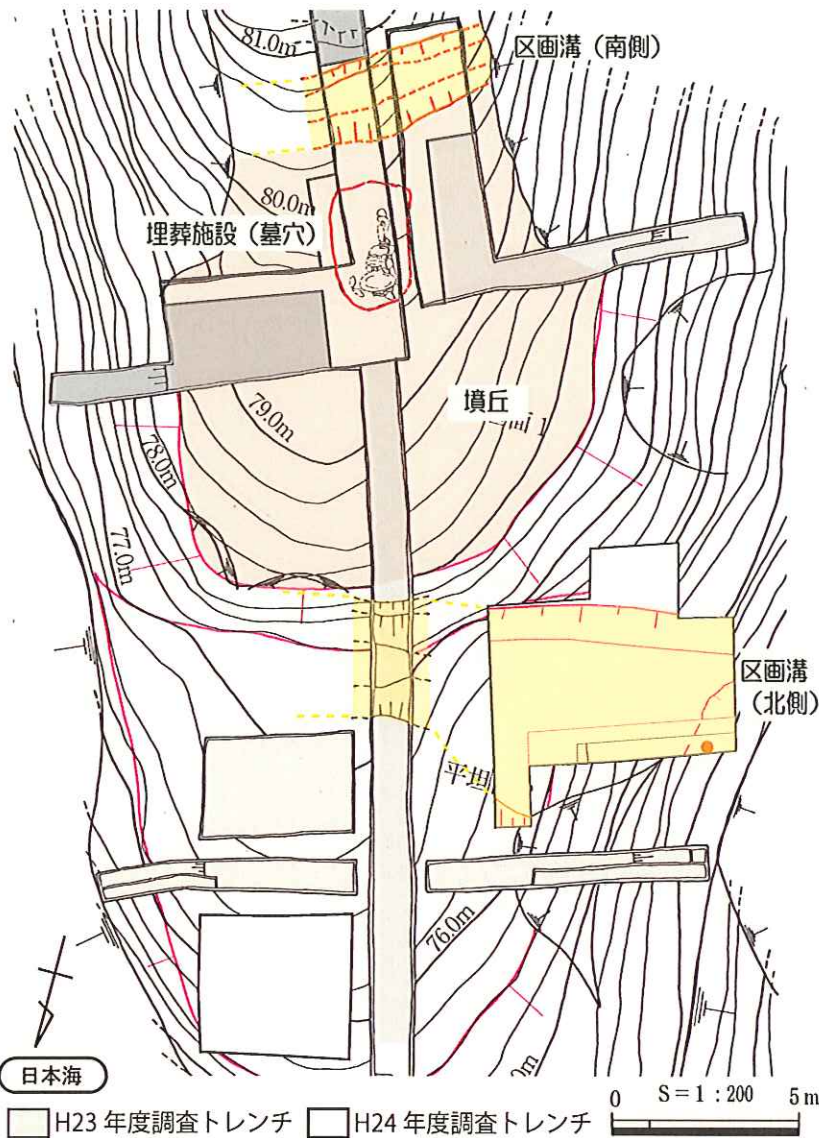


図4 平坦面1 トレンチ配置図 (S=1:200)

墳丘

平面規模：南北 13m × 東西 11m。

高さ：残存高 3.6m。

盛土：本来は盛土があったものと考えられますが、流出し失われています。

区画溝：墳丘の南北には、細い尾根を切断するように溝が2条掘られています。

【南側の区画溝（平成23年度調査）】

幅 2.5m、長さ東西 4m以上
検出面からの深さ 1.1m

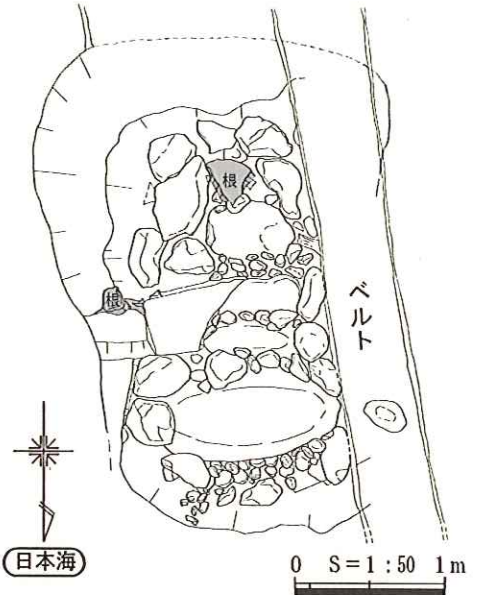
【北側の区画溝（平成9年度及び24年度調査）】

幅 3～4.7m、長さ東西 13m程度
検出面からの深さ 0.7m、
墳丘頂部（残存）からの深さ 3.6m

2段掘の墓墳

上段 長軸推定4m、短軸 2.35m(残存)

下段 長軸 2.8m、短軸不明



まいぞうしせつ 埋葬施設 (墓穴)

墓墳下段とほぼ同じ規模。

小型の竪穴式石槨と考えられますが、被覆のための粘土は見つかっていません。盗掘は受けておらず、蓋石の構造が南北で異なっていることが分かりました。



蓋石（南側）：40 cm程度の角礫。



蓋石（北側）：長さ 1.2m、幅 60 cmの扁平で巨大な河原石。蓋石の隙間に小石を詰める。

調査の成果



《仙谷1号墓》

- 弥生時代後期の主な墓域のひとつである仙谷地区において、最大の墳丘墓である仙谷1号墓の墳丘について調査を行い、正確な大きさや盛土を確認しました。墳丘の高さは、最大で約1.6m(表土含む)で、洞ノ原1号墓や仙谷2号墓と比べても5倍程度高くスケールが大きくなっています。
- 1号墓の南～西側の貼石と北～東側の面の貼石の大きさ、裾部のつくり方に違いがあり、淀江平野や日本海からみえる面を見栄え良くつくったと考えられます。
- 仙谷1号墓のつくられた時期は妻木晩田ムラがもっとも栄える時期の少し前であり、同時期の仙谷2号墓などと比べても立派な墳丘をもつことから、ここに葬られた人物はムラを発展に導いた首長であったと考えられます。

《墳墓(平坦面1)》

- 北側尾根の墳墓(平坦面1)は、尾根を横断する溝で区画された不定形なお墓で、二段墓墳の中に石組みの埋葬施設があることがわかりました。巨大な河原石で蓋をしており、盗掘はうけていないようです。
- 蓋に使用された河原石は阿^あ弥^み陀^だ川など大きな石の取れる河原からここまで運んできたもので、この墳墓をつくるためにかけた労力の大きさが忍ばれます。
- 遺物がないため時期は不明ですが、墳形や埋葬施設の形態から定形的な古墳ではなく、弥生墳丘墓から古墳へと移り変わる段階のお墓と考えられます。

検出遺構一覧表

遺構名	墳丘規模	時期	検出された遺構と遺物
仙谷1号墓	12.5×13m 残存高 約 1.6m	弥生時代後期中葉 (2世紀前半頃)	弥生土器
墳墓 (平坦面1)	13m×11m 残存高 約 3.6m	不明 (弥生末～古墳時代初頭?)	区画溝、墓墳1基



※調査中につき、写真、図面の転載はお控え下さい。

○問い合わせ先

鳥取県立むきばんだ史跡公園

〒689-3324

鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4

電話 0859-37-4000

ファクシミリ 0859-37-4001

ホームページ <http://www.pref.tottori.lg.jp/mukibanda/>

